

つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

「巣鴨を掘る」発掘調査速報



発掘調査の風景 身長より深い地下室を調査しています。

巣鴨遺跡において、2015 年 6 月から 7 月にかけて発掘調査が行なわれました。今回の発掘場所は、地蔵通り商店街（旧中山道）から南側の奥に入った地点で、江戸時代の中山道沿いに発展した巣鴨町家の、奥の空間と考えられています。周辺の調査では、地下室や井戸、ごみ穴などの遺構が発見されており、今回の調査でもこれらの遺構の発見が期待されていました。

本地区では、階段が備え付けられた地下室や植栽痕などの遺構が発見されています。また江戸時代後期までの陶磁器や土器などの遺物も多く出土しています。梅雨時の調査であったため、雨や台風に泣かされたことや、想定外に深い遺構が発見されたため、残土置場の確保にも苦労しました。

近隣の方や通行人が、こんなところに遺跡が残っているのかとよく聞かれます。実際都心の遺跡は、

現代までに行なわれた土地の造成や建物によって、既に破壊されていることが多いです。また縄文時代などの古い時代の遺跡は、江戸時代の遺跡によって壊されています。しかし場所によっては、ほんの30、40cmも掘ると、遺跡が顔を出してくれるのです。

整理事業はまだ始まったばかりです。今回の調査では、どんな歴史を私達に教えてくれるのでしょうか。今後の作業にご期待ください。(榎本邦人)



発見された地下室 写真奥と手前左側に階段が見られます。雨の降るなかでの調査のため、せっかく奇麗にした地下室の中が、濡れてしまいました。



階段のアップ 階段の一部は、現代の井戸（写真右側）に壊されていました。



雑司が谷
まちかど遺跡ミュージアム

「泥面子にみる文様の世界」開催中



雑司が谷案内処



展示の様子

雑司が谷鬼子母神参道の雑司が谷案内処にて、「泥面子にみる文様の世界」展を開催しています。今回の展示では、雑司が谷遺跡・東京地下鉄副都心線雑司が谷駅地区の発掘調査で出土した、江戸時代の玩具「泥面子」の様々な文様に注目しました。

泥面子の文様は、動物や昆虫、植物、人物、文字、家紋、幾何学文様など、色々な種類の文様が作られています。また出土した江戸時代の磁器や陶器製の碗や皿に描かれた文様と、同じデザインの文様も見つかっています。

展示では、泥面子と陶磁器に描かれた文様を比較しながら、江戸時代の文様について紹介する内容となっています。

皆さんもぜひ、雑司が谷にお越しの際には、雑司が谷案内処の2階ギャラリーにお立ち寄りください。

会期：平成27年10月23日～12月9日

10:30～16:30 ※木曜日休館

会場：雑司が谷案内処2階ギャラリー

入館無料です。

お問い合わせ先：雑司が谷案内処 東京都豊島区雑司が谷3-19-5

TEL：03-6912-5026



出土遺物の出張！？

茨城県桜川市^{まかべ}真壁町の真壁伝承歴史資料館で開催されている企画展に豊島区から出土した遺物が展示されています。「戦いのカタチ」と題された展示は、アジア・太平洋戦争が終結して70年を迎えた節目の年ということもあり、あらためて戦争について考える内容となっています。

展示では、戦闘機のプロペラ、戦場での幸運を祈り縫われた千人針、戦意高揚を促す紙芝居などアジア・太平洋戦争期の資料のほか、戦国時代や幕末動乱期の資料も紹介されています。豊島区の資料は、巣鴨遺跡から出土した^{しょうい だん}焼夷弾と空襲による火災で溶けたガラス製品です。焼夷弾は、1945（昭和20）年に東京23区の北部が大規模な空襲を受けた「城北大空襲」の際に投下されたものと考えられる資料です。また、溶けたガラス製品は、同じ空襲か、その前の別の空襲の際に罹災したものと考えられる資料です。いずれも、巣鴨地域が太平洋戦争の際に大きな被害に遭ったことをもの語る貴重な資料と言えます。

豊島区の埋蔵文化財を区外の方々にも知っていただける機会をつくっていただいた桜川市担当学芸員の方には感謝の念に堪えません。今回の展示の出品に至ったのは、当会と区教育委員会の連携が上手く機能した結果と言えます。今後も、教育委員会に協力して豊島区の文化財の普及に努めてまいりたいと思います。（山崎吉弘）



展示ポスター

会 場：真壁伝承館歴史資料館
所在地：茨城県桜川市真壁町真壁 198
（JR 水戸線岩瀬駅からタクシーで20分）
電 話：0296 - 23 - 8521
会 期：平成27年9月26日（土）
～12月25日（金）
休館日：月曜・祝日（祝日が月曜の場合は翌日も）
入館料：無料
H P：http://www.city.sakuragawa.lg.jp
/index.php?code=2212

伊関マモル先生のワンポイントアドバイス



戦国時代の真壁町は、真壁氏によって治められ、その当時の町割が残されています。また江戸時代や明治・大正時代の建物が現在も多く残され、国の伝統的建造物群保存地区に選定されています。資料館に訪れた際には、真壁の古い町並みを見学するのも、おすすめです。



富士信仰の史跡訪問

～バスツアー企画進行中です～

当会では、これまでに、勤労福祉会館主催講座の一環として、近県の古墳や中世城郭をめぐるバスツアーを企画し、好評をいただいております。次は、富士山麓にある豊島区ゆかりの富士講の痕跡を訪ねる日帰りバスツアーを開催しようという企画が持ち上がり、現在その準備を進めています。

富士講は江戸時代後期に流行した、現世利益を願う庶民の信仰です。もとは修験の道場であった富士山麓の各所が庶民の参詣地となり、江戸で数多く結成された講社ごとに参詣者が訪れました。豊島区内から富士山に参詣に行った人々の足跡を訪ねようと、シルバーウィークも過ぎた9月某日、当会のスタッフ8人で2台の車に分乗し、河口湖方面に向かいました。区内の富士講について長年調査してきた橋口理事からレクチャーを受けながらの旅行です。

今回の訪問地は5か所でした。

船津胎内神社→富士山登山道・馬返：史跡整備地域→北口本宮富士浅間神社→富士山ミュージアム（以上山梨県富士吉田市）→人穴浅間神社（静岡県富士市）

富士山信仰に関わる遺跡や神社、そこに奉納された数多くの石碑や石塔、富士講と富士詣にかかわる様々な資料を見てまわるコースです。あちこちに残る巢鴨、池袋、椎名町、高田といった豊島区ゆかりの富士講社のマーク（講紋）を探すこともテーマの一つです。

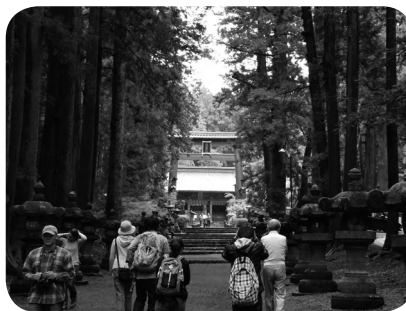
事前にインターネットなどで下調べをし、時間配分を考えてコースを決めました。また、史跡整備のための学術報告書を読んで、準備は万端のはずでした。

しかし珍し物好きで話の長いスタッフが集まれば、行く先々で時間がたっぷりかかります。石碑の裏側や神社の千社札を眺め、写真を取り、狭い洞窟に交代で入り、神社の裏山の草むらに入り込んで地形を観察しているうちに、日がどんどん暮れてきて・・・また、2011年の震災で石塔が倒れたり、洞窟に入れなくなったりしている場所もありました。旅の楽しみのひとつ、昼食をどうするかなど、課題も残っています。

来年のこの時期に、バスツアーを開催する予定です。スタッフも今回の下見の反省会をしながら旅程を再検討しています。お楽しみいただける内容をご提案いたしますので、ぜひ一緒に富士詣に参りましょう。（成田涼子）



船津胎内神社で胎内めぐり



富士浅間神社



人穴浅間神社の碑塔群

【編集後記】

編集・発行



特定非営利活動法人
としま遺跡調査会

●朝晩と寒い日が多くなり、日が暮れるのも早くなっていますが、体調管理に気をつけ、仕事をがんばりたいと思います。

●賛助会員の更新時期となりました。更新のお手続きをお願いいたします。(㊦)

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨3-8-9 巢鴨複合施設201号室

Tel・Fax 03-3915-6962

E-mail tics389@a.toshima.ne.jp

ホームページアドレス：<http://www.toshima-iseki.org/>

題字：湯澤和子 ロゴデザイン：石原幸

イラスト：島村敦子・菅沼晶子・千葉弘美

「つたのは通信」の由来：篇は大きな樹ではありませんが、生命力が非常に強い植物です。この篇の葉が周囲の樹木や建物につたい茂るように、多くの人に遺跡の楽しさ、大切さを知ってもらいたいとの願いを込めて会報の名としました。また、染井遺跡を代表する大名屋敷である津藩藤堂家の家紋としても、馴染み深い植物です。